

古墳壁画の保存活用に関する検討会（第8回）議事要旨

1. 日 時 平成24年2月29日（水）14：00～16：00
2. 場 所 文部科学省東館3階 3F1特別会議室
3. 出席者 （委員）
永井座長、有賀副座長、青柳委員、梶谷委員、北田委員、木下委員、佐藤委員、里中委員、高鳥委員、成瀬委員、三浦委員、三村委員、森川委員、和田委員
（協力委員）
西藤委員、舟久保委員
（事務局）
文化庁：河村文化庁次長、石野文化財部長、大和文化財鑑査官、栗原古墳壁画室長、矢野記念物課長、建石古墳壁画対策調査官、内田文化財調査官 ほか関係官
独立行政法人国立文化財機構：
東京文化財研究所 石崎副所長・保存修復科学センター長、川野邊文化遺産国際協力センター長 ほか関係者
奈良文化財研究所 高妻埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長 ほか関係者

4. 概 要

- (1) 開会
- (2) 事務局の異動について
- (3) 文化庁挨拶
- (4) 議事

①キトラ古墳の整備について、キトラ古墳壁画の保存・活用について

キトラ古墳の整備及びキトラ古墳壁画の保存・活用について、事務局から資料2に基づいて説明が行われ、文化庁所有のキトラ古墳壁画複製陶板の体験学習館（仮称）における活用について提案があった。その後、舟久保委員から、資料3に基づいて国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区の整備に関する説明が行われ、キトラ古墳壁画複製陶板の活用について前向きに進める旨の発言があり、以下のとおり意見交換等が行われた。

木下委員：過去に行われたキトラ古墳の発掘調査報告書を改めて確認したが、キトラ古墳は、すくなくとも前方は二段築成になっているので、事務局案を基本に整備する方向でよいと思う。

北田委員：科学的、学術的にはできるだけ手を加えない方法が正しいと思うが、文化財が屋外にあるため、風雨や台風などによる表土の流出、崩壊が危惧されることから、長期的な保存のための適量の盛り土や植栽等の対策が必要。例えば、杭などを使って、現在の表面の位置が分かるようにし、修理が必要になったときには現在の表面の位置を確認できることが必要。また、古墳としての風水思想も配慮した整備ができればよいと思う。

和田委員：基本的には事務局案に賛成する。発掘調査では、東側から北側に係る部分を発掘して二段築成という結論を出しているが、全体の地形を見ると、東側と西側が必ずしも同じ地形ではないので、西側も発掘して確認した方が正確な図面が書けると思う。また、終末期古墳の風水思想の特徴である墳丘の後ろのあぜは、古墳鑑賞広場から見上げた際には目立たないので、古墳の景観の妨げにはならないと思う。

佐藤委員：今後、古墳周辺の国営公園もかなり整備されると思うので、来園者が当時のキトラ古墳を実感できるような形状に整備した方がよい。また、石室のレプリカは体験学習館において見学できると思うが、古墳鑑賞広場にも設置した上で、本来の古墳の形状、発掘前の形状、整備後の形状が分かるような説明を加えるとよい。

三浦委員：古墳の東側の方が土層が薄くなっているのので、事務局案のように盛り土をして土層を厚くすることには賛成だが、古墳の北側に水がたまらないような排水を考える必要がある。

西藤委員：最新の技術を活用して、墳丘の現在の形状、学問的に復元される形状、整備工事竣工後の形状等を三次元で重ね合わせることも可能だと思う。そうすれば、体験学習館で壁画を見た来園者は、古墳の形状を想像して、実際の古墳を見ることができると思う。

三村委員：後から作る盛り土はどうしても柔らかくなるので、現在の表面と盛り土の境界は水みちになりやすい。上流から流れてきた水が盛り土部分にたまって崩壊を起こさないよう整備することが必要。

(事務局から、机上配布資料が配布される。)

事務局から、机上配布資料の説明があった後、以下のとおり、意見交換等が行われた。

青柳委員：以前は、手を加えた部分をなるべく分からないようにする手法が主流だったが、19世紀後半頃から、手を加えた部分は分かるようにして復旧させる方向になっている。例えば、現在の墳丘ラインが分かるように溝を作っておくなど、めりはりのある復旧にしてはどうか。また、専用の眼鏡を使って往時の状況を確認できるバーチャルリアリティの技術もあるので、新しい技術を活用してもよいと思う。

森川委員：明日香村全体をフィールドミュージアム化し、7世紀の景観が想像でき、肌で感じられる村づくりをしていきたい。キトラ古墳周辺地区は、その中核施設の一つとなるので、来園者にとって分かりやすい表現をしていただくとありがたい。せっかく整備していただくので、関係機関と連携しつつ、新しい技術の活用などにも挑戦していきたい。

永井座長：キトラ古墳の整備に関する基本方針としては、本日、お示した案で御了解いただいたものとし、事務局においては、引き続き整備の設計を進め、適宜、本検討会に進捗状況等の報告をお願いしたい。次に、キトラ古墳壁画の保存・活用に関する御意見を伺いたい。

梶谷委員：壁画に接近して見ることができする方法には賛成するが、収蔵庫から突き出た部分の空調制御の見通しがあれば聞きたい。

建石調査官：当該部分の空気を安全な形で動かせるよう、来年度に行う実施設計に反映していきたい。

成瀬委員：実施設計の際に、保存科学の専門家の意見を取り入れて整備するのか。

建石調査官：保存科学の専門家の意見も取り入れるつもりである。

佐藤委員：壁画を保存しながら展示を行うのはよい方法だと思う。関係機関の専門家が責任をもってキトラ古墳壁画を保存管理、調査研究し、海外から来た人にも適切に説明できる体制を構築して、世界的レベルで壁画の調査・修理をけん引する施設になることを期待している。また、体験学習館においても、有る程度専門的な能力を持った方が説明できる体制作りを心がけてほしい。

舟久保委員：今後、体験学習館における専門的な知識のある方の活用について検討していきたい。

和田委員：壁画を保存する場所として1階がよいのか、地下がよいのか考えていただきたい。

成瀬委員：壁画保存施設の屋根は、日照の影響で気温が高くなるし、地下の温度は安定していると思うが湿気が気になる。また、壁画保管室を地下にした方がよいのか、1階にした方がよいのか伺いたい。

建石調査官：壁画の搬入や環境管理の面等から、壁画を保存するのは地下よりも1階の方が適当と考えている。車の動線は、公道から直接1階に入れる形を予定している。壁画等の文化財が置かれる空間の環境管理には十分に配慮する。

西藤委員：トラックヤードが壁画保管室に近いので、虫の侵入に注意が必要。

建石調査官：ご指摘の点にも十分配慮した上で設計を進めていきたい。

舟久保委員：村道が体験学習館の1階部分にあたるので、地下に壁画を保管するとどうしても上下の移動が生じる。壁画への負担をできるだけ軽減するため、1階に壁画を保管す

る予定である。

高鳥委員：壁画保管室の温湿度を一定にすることは大事だが、別の場所から外気が入ってくることも考えられるので、展示室、機械室等の諸室の配置などにも考慮して設計を進めることが必要。

木下委員：体験学習館と展示室は、見学ラインとして上下で繋がっているのか。

建石調査官：動線としては繋がっているが、環境管理については別系統で設計する予定である。また、1階展示室の公開の頻度等についても、今後検討していきたい。

永井座長：それでは、キトラ古墳壁画の保存・活用に関しては、事務局案で御了解いただいたものとする。事務局においては、古墳の整備と同様、引き続き設計を進め、適宜、進捗状況の御報告をお願いしたい。

②史跡造山古墳第五古墳（千足古墳）の保存対策等について

史跡造山古墳第五古墳（千足古墳）の保存対策の経過及び装飾古墳の保存管理状況の実態調査について、参考資料1に基づいて事務局から報告が行われた。

③史跡清戸迫横穴の現地確認について

史跡清戸迫横穴内の壁画の現地確認結果について、参考資料2に基づいて事務局から報告が行われた。

④高松塚古墳壁画発見40周年 国宝高松塚古墳壁画修理作業室の小学生を対象とした一般公開について

国宝高松塚古墳壁画修理作業室の小学生を対象とした一般公開について、参考資料3に基づいて事務局から報告が行われた。

(5) その他

事務局より、次回の日程等について連絡があった。

(6) 閉会

以 上